

第30回（令和6年度第1回）静岡市ものづくり産業振興審議会 会議録

- 1 日時 令和6年8月21日（水） 午後2時～午後4時
- 2 場所 ツインメッセ静岡 409会議室
- 3 出席者 **【委員】**
鳥羽委員（会長）、山下委員（副会長）、伊藤委員、井野委員、小澤委員、上妻委員、杉山委員、鈴木委員、牧野委員、松岡委員、望月委員、弓桁委員
【事務局】
気田経済局次長兼商工部長
産業振興課：福井課長、水島地場産業担当課長兼地場産業係長、
五十嵐課長補佐兼経営支援係長、頭師主査、天野主査、
赤堀主任主事、大石主事
- 4 傍聴者 なし
- 5 議題 第4次静岡市ものづくり産業振興基本計画の実施状況について
- 6 会議内容
 - （1）開会（事務局）
 - ・委員全員が出席しており、静岡市ものづくり産業振興条例施行規則の規定に基づき、本日の審議会が成立していることを報告。
 - ・本審議会を公開とすること及び議事録も公開とすることを確認し、各委員が了承。
 - （2）経済局次長あいさつ
本日の審議会では、第4次静岡市ものづくり産業振興基本計画の初年度である、令和5年度の各種事業の実施状況を報告する。近年、社会経済環境の変化は、これまで経験したことがないほど振れ幅が大きく、その速度も驚愕するほどである。また、課題も多様化しており、少子高齢化や生産年齢人口の減少に伴う人手不足、原材料費の高騰、環境問題など、深刻な課題が次々生じている。このような状況下においては、計画作成当時の事業内容にこだわることなく、時世にあわせた見直しが必要である。そのため、現計画を毎年度評価し、本市ものづくり産業に必要と考えられる施策に見直すため、活発な議論をお願いしたい。
 - （3）第3次静岡市ものづくり産業振興基本計画の実施状況説明（産業振興課 五十嵐課長補佐）
資料1「各事業の実施状況一覧表」、資料2「事業別進捗個票」を用い、第4次静岡市ものづくり産業振興基本計画の実施状況について説明。

ア 意見交換

①施策１－１「中小企業融資制度による資金調達支援」について

(弓桁委員)

中小企業診断士の活動において、創業の相談を受けることが多い。制度融資に関しては、どのように周知活動をしているのか。それにより制度の認知度や利用頻度が変わってくると思うため、教えてほしい。

(五十嵐課長補佐兼経営支援係長)

パンフレットを作成し、主に金融機関に配布している。各金融機関には、そのパンフレットを用いて市内事業者案内するよう依頼している。

②施策３－９「産業フェアしずおか開催支援事業」

施策３－１０「伝統工芸品産業育成・振興事業（しずおか特産品まつり）」について

(伊藤委員)

施策３－９、３－１０など達成指標を来場者数としているものがある。来場者数はどのようにカウントしているのか。自身の経験から、イベントの来場者数の把握の難しさを感じているため、質問したい。

建物内でのイベントでは、来場者数測定のために入口に測定器を置くと思うが、産業フェアのように建物の北館・南館を使う場合、一人の客が行き来することで重複カウントされてしまう。特産品祭りなど、青葉シンボルロードのような屋外の開放的な場所で行うイベントでは、通行人とイベント来場者の区別がつきにくく、そもそもの計測が困難である。達成指標を売上額や店舗に訪れた人数等に変更した方がよいのではないか。

(水島地場産業担当課長兼地場産業係長)

委員認識のとおり、産業フェアは入口で人数カウントを行っている。ご指摘のとおり重複カウントになっているかもしれないが、毎年同じ形態で開催しているイベントであるため、カウントも同じようにし続ければ傾向は把握できると考えている。青葉シンボルロードで行われるイベントは、周囲で開催されている他のイベントや天候等の外的要因により来場者数が大きく変化してしまうため、達成指標の変更も検討していく。

(気田経済局次長兼商工部長)

指摘事項については悩ましく感じており、これまでも経済部局に限らず、各部署が工夫・試行錯誤している状況である。〇㎡四方のマスを想定し、その中の人数×面積分のように人数を算出している場合もある。ただし、そのような計測方法においても、重複カウントについては課題がある。他に適する計測方法がないか、また達成指標の内容を変更するか検討していきたい。

(鳥羽委員)

イベントは周囲の状況や天候が大きく関係し、人数を指標にすることは難しいと考える。自身も屋外イベントの参加経験があるが、晴れれば来場者数が増えるわけでもなく、非常に難しく感じている。なお、産業フェアについては出展者の意欲が下がっていると感じている。

③施策１－３「事業承継支援事業」について

(鈴木委員)

事業承継支援について、目標を４件、支援結果が３件と報告がある。この件数はいくつか。跡継ぎが

おらず閉業する会社はもっと数が多いと思う。年間で何社程度が事業承継できずに会社を畳んでいるのか、実態が分かれば教えてほしい。

(五十嵐課長補佐兼経営支援係長)

市としても実態を把握できていないのが現状。静岡県事業承継・引継ぎ支援センターという支援機関があり、マッチングの専門家がいる。市としては、潜在的に事業承継を必要としている事業者を発掘し、必要な支援をしていきたいと考えている。今後、数が把握できれば事業を起こしていきたい。今年度は実態把握に努めている。

(福井課長)

3件というものは、市に相談にきて、伴走支援をした件数である。相談に来ずやめていく事業者が多いのではという実感はある。

④施策1－4「事業継続（BCP）に係る啓発」について

(小澤委員)

静岡商工会議所ではBCPに関するセミナーを例年企画しているが、他のセミナーに比べて人が集まらない状況。目の前のことに忙しい事業者に刺さるには、どのように事業者の意欲を高めるかが需要であると考え。国の小規模事業者向けの補助金では、BCPを策定している事業者は加算措置がされたりする。きっかけ作りとしてはそのようなやり方も有効なのではないか。

(望月委員)

伊豆地域の自治体では、損保会社と連携してセミナーを開催していると聞く。そのセミナーでは、セミナー後に個別ヒアリングをする時間があり、その場で簡単なBCPの計画が作れるというプランとのこと。

(松岡委員)

先日、自社のBCP計画の見直しを行った。静岡市が公表しているハザードマップと照らし合わせて計画を立てることができたらいいのではないかと感じた。静岡市が、地域ごとの模範的なBCP計画をホームページ等で公開してくれるとありがたい。

⑤施策5－9「地元就職・UIJターン就職促進事業」

(弓桁委員)

就職者の促進をしていると思うが、肌感的に静岡市で起業する人も多く、就職以外の選択肢もあるのではないかと感じる。セミナーや交流会を行う場合、市内で創業している人の話を聞く機会を設けることで、働きやすい、起業する支援体制が整っていることのアピールになるのではないか。

(五十嵐課長補佐兼経営支援係長)

産業政策課において、創業支援やスタートアップ支援を行っている。学生向けの支援にも力を入れており、経営者の話を聞く機会もある。子供の頃から起業精神を身に着けるべく事業を行っている。

⑥施策5－5「こどもクリエイティブタウンでの職場体験等」

(井野委員)

こどもクリエイティブタウン「まある」の指定管理者の立場から、状況について補足したい。令和5年度は来場者数の目標数値に届かなかったが、令和6年度はさらに来場者数が増える。

くなりそうな実感。モノづくりという観点では、来場者数ではなく、該当する講座への参加数の方が指標になるのではないかと考える。講座への応募は定員より多く、夏休みは親子で体験できる講座の需要が高く、まあただではやりきれない。夏休みに色々な企業の体験ができるイベントがあるとよいと感じる。こどもたちのために協力してくれる気持ちを持つ市内企業も多いのではないかと感じている。

⑦指標の設定方法についての意見

(鳥羽会長)

指標の設定方法について各委員から意見があるが、専門家として牧野委員はどのようにお考えか。例えば、施策4-2「伝統工芸技術アーカイブス事業」については、伝統技術の映像化本数2本/年が目標だったところ、実績は1本/年であり、達成評価はC（達成率50%）となっている。しかし、伝統工芸に携わる身としては、技術を1本でも映像化できていることは達成評価S級でもいいのではないかと感じている。

(牧野委員)

鳥羽会長の意見のとおり、その施策は本数を指標にしているが、すべてを量で把握できるわけではない。量的、質的の両方で捉えることが次の段階への一歩だと感じる。

奥に踏み込むと同時に、全体でみることも必要。第4次～計画は、そのあたりが体系的に設定できていると感じる。P37、P39と、いくつかの視点がきちんと整備されている。視点を変えた評価というものは必要であり、行う価値がある。今回の評価が重要だと思っている前提での意見であるが、目標が達成できるのであれば他の方法でもよいかも。

⑧その他

(杉山委員)

計画について、もっと広く知っていただくことが重要だと思う。

(4) 事務連絡

(5) 閉会